

contents

1 特集鼎談 『新・郊外居住』の実践と展望  
これから100年 あるべき都市と住まいの姿  
望月 久美子 株式会社東急住生活研究所 代表取締役社長  
齊木 崇人 神戸芸術工科大学 大学院芸術工学専攻主任  
環境・建築デザイン学科教授 副学長  
高松 慶幸 独立行政法人都市再生機構 理事

8 UR Project/全国で展開している『新・郊外居住』の取り組み  
兵庫 ガーデンシティ舞多聞 (神戸学園南地区) みついけプロジェクト  
千葉 流山新市街地地区 安心・安全まちづくり  
茨城 中根・金田台地区 緑住農一体型住宅地  
埼玉 越谷レイクタウン地区 親水文化創造都市  
愛知 飛香台 (常滑西地区・常滑東地区) 環境との共生に配慮したまちづくり  
京都 南田辺北地区 同志社山手プロジェクト

13 都市の情景 田園と都市が 歴史と未来が 融け合い 結ばれて  
千葉ニュータウン 印西牧の原 亀成橋

15 メッセージ/まち探訪 いきいき『新・郊外居住』  
安心と安全の横浜丘の手  
港北ニュータウン  
渡辺 裕之 俳優

“みんなで創りだす豊かさ”を  
八王子みなみ野シティ  
荒井 嘉夫 みなみ野自然塾 代表

17 連載 “いま光る”都市を訪ねる 第8回  
煉瓦の発見 点から面への展開へ  
一都二彩の街 舞鶴市  
西村 幸夫 東京大学大学院 都市工学専攻教授

19 シリーズ 街が甦るミュージアム ⑥  
三内丸山縄文遺跡から発想 迫力ある存在感を見せる 青森県立美術館

21 UR TOPICS/編集後記

『新・郊外居住』の実践と展望

これから100年 あるべき都市と住まいの姿

特集 鼎談  
ていだん

齊木 崇人  
さいき たかひと



神戸芸術工科大学 大学院芸術工学専攻主任  
環境・建築デザイン学科教授 副学長  
広島工業大学工学部建築学科卒 工学博士(東京大学)  
筑波大学専任講師 スイス連邦工科大学客員研究員  
ウェストミンスター大学客員教授 等を経て現職  
1986年日本建築学会賞(論文)受賞  
著書に「自治体都市計画最前線」「日本の風景計画」  
(いずれも共著 学芸出版社)、「New Garden City in  
the 21st Century?」(共著 神戸芸術工科大学)など

高松 慶幸  
たかまつ よしゆき



独立行政法人都市再生機構 理事  
北海道大学大学院衛生工学科修了  
宅地開発公団採用  
都市基盤整備公団 本社都市整備部長、  
都市再生機構 東京都心支社長、  
本社業務企画部長を経て現職

郊外居住は依然として日本人の暮らしのスタンダード

高松 最初にUR都市機構のニュータウン事業の現状をお話ししますと、昭和30年代からこれまでに約2100地区、施行面積約2万6千haに及ぶまちづくりを行ってきました。平成16年にUR都市機構として再スタートし、ニュータウン事業は新規には着手せず、現在事業中の約50地区について平成25年度末までに工事を完了し、平成30年度末までに販売を完了するというスケジュールで事業を行っています。時間の制約はありますが、大切なストックづくりですから、住みよい街、評価される街をつくらなければならぬと考えています。今日は郊外ならではの魅力的な暮らし『新・郊外居住』(注)についてお話を伺いたいのですが、5年前に先生方からいただいた

住まいとしての郊外は依然需要の中心ということですが、都心回帰といわれていますが、それらは10%にも満たない特殊な方々のニーズなのですね。団塊ジュニアやポスト団塊ジュニアなど若い人たちには、郊外のニュータウンに暮らすことへの願望が大変高い。それはニュータウンが既に50年の歴史を持ち、郊外文化というものが醸成され、彼らにとって身近な街になっているということです。郊外を選択する理由は、治安、日照のほか、空間的ゆとり、まちなみ、地域イメージなどが重要な尺度になっています。それらが満たされている郊外の需要がしっかりと顕在化しています。

高松 なるほど。望月さんのお話では需要の中心は郊外にあり、今後の需要層である団塊ジュニアは特にそういう傾向にあるということですね。

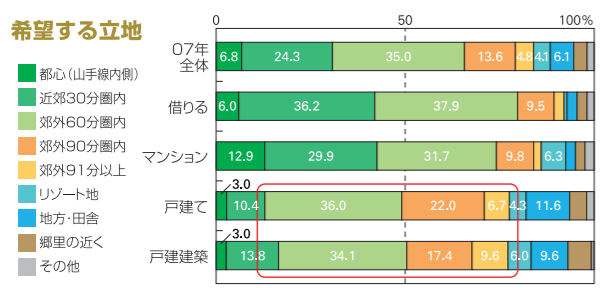
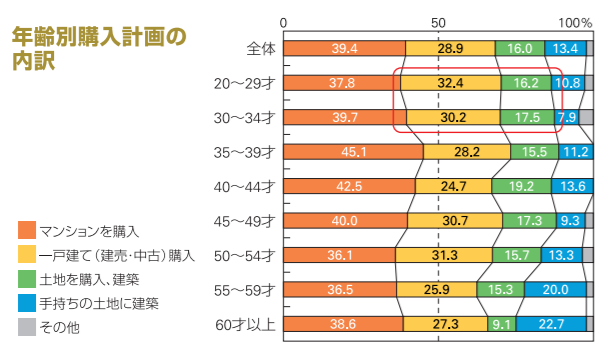
望月 久美子

株式会社東急住生活研究所 代表取締役社長

東京都立大学人文学部卒業 早稲田大学大学院修士課程修了  
東急不動産を経て東急住生活研究所入所  
住宅都市事業 リゾート開発等の調査研究に従事  
都市基盤整備公団基本問題懇談会 新郊外居住部会委員  
横浜市住宅政策審議会委員 国土審議会土地政策分科会委員  
住文化研究協議会企画委員会委員長 等を歴任  
著書に「サラリーマン住まい白書」(共著 住宅新報社)



望月 首都圏の郊外マーケットをどう捉えるか、私たちは毎年調査をしています。結論は、



「住生活1000人調査2007」(株)東急住生活研究所 提供